

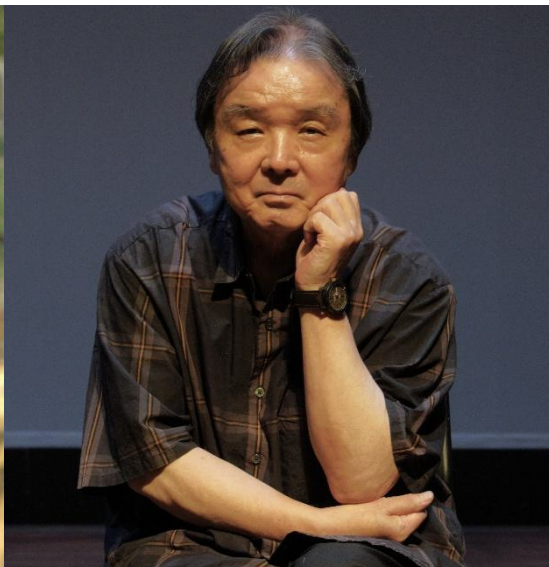
# 2026年 10月下旬、公演決定!



兼島拓也 (カネシマ・タクヤ)

1989年沖縄県生、在住。

2013年に演劇グループ「チョコ泥棒」を結成。また、琉球舞踊家との演劇ユニット「玉どろぼう」としての活動も行う。脚本家として18年『Folklore (フォークロア)』で、第14回おきなわ文学賞シナリオ・戯曲部門の一席を受賞。その他2作品で同賞の佳作受賞。21年NHK-FMシアター『ふしぎの国のハイサイ食堂』で、第31回オーディオドラマ奨励賞・入選。22年『ライカムで待ってとく』で、第30回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。同作で第26回鶴屋南北戯曲賞および第67回岸田國士戯曲賞の最終候補となり、24年に再演。また同年『刺青/TATTOOER』を日本、英国上演し、作・共同演出した『花売の緑オン(ザ)ライン』は、第69回岸田國士戯曲賞の最終候補となる。27年1月下旬にKAAT神奈川芸術劇場、3月に宮崎県立芸術劇場にて、それぞれ新作を上演予定。セゾン文化財団26年度セゾン・フェロー。



栗山民也 (クリヤマ・タミヤ)

1975年 早稲田大学文学部卒業。

1980年 ベケット作『ゴドーを待ちながら』を第一作とし、その後、井上ひさし作『日本人のへそ』『國語元年』『黙阿弥オペラ』などを演出、注目を集める。

1996年『GHETTO/ゲッター』の演出で第30回紀伊国屋演劇賞個人賞、第3回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第46回芸術選奨文部大臣新人賞受賞。

1998年 新国立劇場芸術参与。

1999年『エヴァ、帰りのない旅』で第40回毎日芸術賞・第1回千田是也賞、第6回読売演劇大賞最優秀演出家賞受賞。

2000年～2007年 新国立劇場演劇部門の芸術監督を務める。

2005年～2016年 新国立劇場演劇研究所長を務める。

2002年 第1回朝日舞台芸術賞受賞。『喪服の似合うエレクトラ』で第4回朝日舞台芸術賞グランプリ。

2013年 紫綬褒章を受章。

2019年『チルドレン』『母と暮らせば』の演出で第26回読売演劇大賞と最優秀演出家賞を受賞。

2023年 旭日小綬章を受章。

2024年『PARCO PRODUCE 2024 オーランド』

2025年『フロイスーその死、書き残さず』『明日を落としても』第50回菊田一夫演劇賞・大賞を受賞。

オペラでは、新国立劇場オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』日生劇場開場50周年記念公演『リア』、60周年記念公演『メデア』などを手がける。

著書に『演出家の仕事』(岩波新書)がある。

## 『終わりの代わりに』 兼島拓也 × 栗山民也 なはーと開館5周年記念事業

2026年

10月23日[金] ～ 25日[日]

那覇文化芸術劇場なはーと 小劇場 (1階)

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-26-27

作：兼島拓也 演出：栗山民也

ソフォクレスのギリシア悲劇『アンティゴネー』と『コロノスのオイディプス』を下敷きに、戦後13年(1958年)の沖縄、大湾家に舞台を移した物語。古代から続く「共同体における死者の埋葬・追悼」と「穢れの追放・救済」を巡る複雑な立場の葛藤を戦中～米軍統治下の沖縄に据える。国家による死者や病者の包摂と排除のシステムに対して、共同体と個人のあいだで揺らぐ家族の言葉から、「国家の承認」に救いを求めない人間の尊厳を現代に問う。

那覇文化芸術劇場なはーと

TEL: 098-861-7810

受付時間: 10:00～19:00 (休館日は第一・第三月曜日/祝日は開館、祝日が重なった場合は翌日が休館)

主催: 那覇市 企画制作: 那覇文化芸術劇場なはーと

制作: Theater TEN Company 制作協力: アニマ・エージェンシー

